

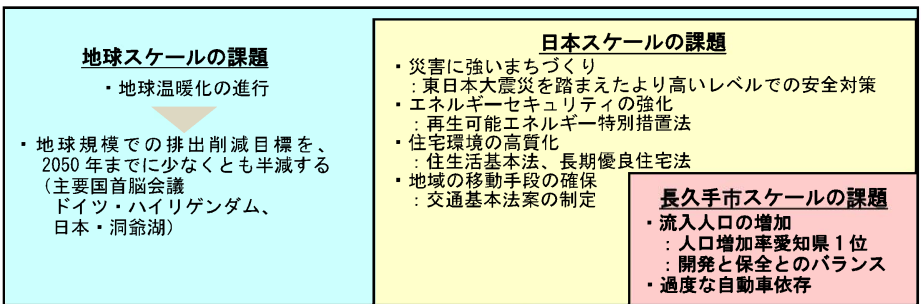
# 公園西駅周辺環境配慮型まちづくり基本構想(概要版)

## 背景・目的

本地区におけるまちづくりでは、それらの諸課題を十分に考慮したうえで、公園西駅周辺地区という地区スケールでの環境配慮型まちづくりの取組みを進めることにより、以下の2項目を達成することを長期的な目的とする。

- ① 新規、既存を含めた長久手市全体の環境配慮型まちづくりのモデルを確立すること
- ② 住宅主体の都市としてのブランドを確立するとともに、持続可能な都市経営基盤を確立すること

＜公園西駅周辺地区検討の背景及び目的＞



## 公園西駅周辺地区という地区スケールでの環境配慮型まちづくりの検討



## 長久手市全体の環境配慮型まちづくりのモデルとしての位置づけ

持続可能な都市経営基盤の確立へ

## 検討の対象範囲

<b>対象エリア</b>	本地区内を中心としつつも、必要に応じて地区周辺も含む。
<b>対象期間</b>	基盤整備段階から建物建設、供用後のマネジメントまでを含む。
<b>対象とする技術・システムの導入メニュー分野</b>	技術・システムの導入メニューを次の5分野に分けて検討する。 「移動・交通分野」 「創エネルギー分野」 「省エネルギー分野」 「情報・コミュニケーション分野」 「自然保全・利用分野」
<b>対象とする技術・システムの導入先</b>	基盤インフラを中心としつつも建物、設備・機器、ソフトウェアまでを含む。
<b>対象とする価値創出分野</b>	環境分野を中心としつつも、技術・システムの導入により同時・付随的に創出する他分野(交通、防災、福祉、健康、防犯、コミュニティ)までを含む。

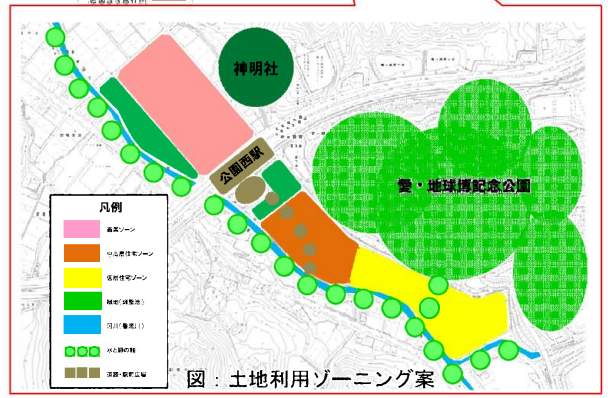
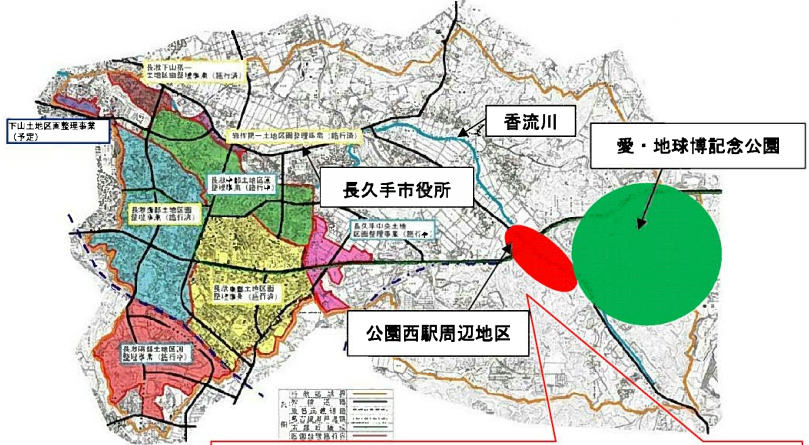
## 基本構想の位置づけ

基本構想では、本地区に関する基本理念・目標、導入メニューの方向性、実現方策の方向性に関する基礎的な考え方についてとりまとめる。  
 また、基本構想を受けて、平成24年度には基本計画を策定する。基本計画では、導入メニューの具体的な技術・システムの内容・組み合わせやその実現方策について最終的な計画を策定することを目標とする。



## 対象地区の位置

長久手市では市街化区域の約78%が土地区画整理事業による計画的なまちづくりを進めており、本地区においても土地区画整理事業による計画的なまちづくりを進めていく事としている。



## 基本理念・目標の設定

### 【基本理念】：「人・コミュニティ・自然がつながる持続可能で豊かな暮らし」

2005年、「自然の叡智」をテーマに21世紀社会モデルを模索し、世界に情報を発信した愛・地球博の地に隣接する豊かな自然広がる公園西駅周辺地区において、人・コミュニティ・自然がつながる持続可能で豊かな暮らしを創出する。

#### 目標1 「人と自然をつなぐ」

- 【方針】
- 公共空間に緑を取り込みます
  - 光・風・水・地の自然を上手にとりこみ、さえぎって活用します
  - 住民主体で自然を守り・育てます

#### 目標2 「人とコミュニティをつなぐ」

- 【方針】
- 若いも若きも幅広い世代が共に支えあって暮らせるまちをつくります
  - 大切な自然や思いを次世代につなげていく仕組みをつくります
  - 同じ関心をもつ人たちが集まって、思いを実現できる仕組みをつくります

#### 目標3 「つなぐインフラで暮らしを支える」

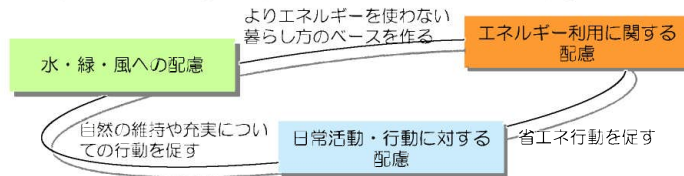
- 【方針】
- 再生可能エネルギーを活用し、必要に応じて分けあうエネルギーインフラをつくります
  - 極力自動車に依存しないで暮らせるモビリティインフラをつくります
  - 暮らしに関する情報をつなぎ、取組を支援する情報インフラをつくります

#### 目標4 「まわりとつながる」

- 【方針】
- 一体的なにぎわいや景観づくりをめざし、愛・地球博記念公園と連携します
  - 地区全体の低炭素化に商業施設も積極的に参画してもらうとともに、エネルギーや防災等の面で住民と共に支え合う仕組みをつくります

## 導入メニューの方向性

環境配慮型のまちづくりを進めて行く上で、自然環境の豊かさを高めていくための「水・緑・風への配慮」、低炭素社会への転換を進めていくための「エネルギー利用に関する配慮」、本地区の居住者や来訪者の実践を支えるための「日常生活・行動に対する配慮」という3つの方向からのアプローチが必要。



愛・地球博記念公園や香流川をつなぐグリーンインフラの構築 ～グリーンを享受～	自然の資源と建物をつなぐエネルギーインフラ・システムの構築 ～エネルギーを融通～	人とモノをつなぐコミュニティマネジメントシステムの構築 ～行動へのアプローチ～
① 公園や調整池の整備にあたっての環境配慮デザイン ② 香流川の親水整備による水へのアクセス確保 ③ 香流川、愛・地球博記念公園と本地区をつなげるグリーンロード・風の道の確保 ④ 地区内の要所へのシンボルツリーの整備とネットワーク化 ⑤ 農と連携した住宅地の整備	① 太陽や風を最大限活用出来る街区の整備 ② エネルギーを共同で活用するための拠点とエネルギーネットワークの構築 ③ 省エネ建物の建設とエネルギーを効率的に活用するエネルギーシステムの導入誘導	① エネルギーに関する意識を高めるエネルギーマネジメントシステムの構築 ② 過度な自動車への依存を低減させる仕組みの構築とモビリティマネジメントの実践 ③ 居住者や来訪者のつながりを作るエリアマネジメントの構築

## 実現方策の方向性

### 事業推進のポイント

- 土地区画整理事業の中で取組み導入の条件整備を行う
- 個々の建物建設に対する規制・誘導の仕組みを作る
- 住民主導の取組み推進と推進を支える組織を作る
- 商業事業者や住宅供給事業者等様々な主体の参画と連携による事業推進
- 段階的に取組みを進めていく

### 実現方策

- 街区設計における自然条件、地権者意向の配慮
- 道路・公園等の公共施設・空間における取組み導入空間としての活用
- 環境配慮まちづくり実践ルールの制定
- 環境配慮のコーディネート及びサービス提供を行うエリアマネジメント組織の立ち上げ

## 今後の検討課題

基本計画策定段階における主な検討課題として以下の5点が挙げられる。

- 各種要件を踏まえた導入メニューの具体化
  - 二酸化炭素削減効果、その他メリット、コスト（導入コスト、維持管理コスト）、主体（導入、コスト支出、管理等の各フェーズの主体）等の各種要件を踏まえ総合的な判断は必要
- CO2削減に関する数値目標の設定
- 環境配慮型まちづくりにまつわる担い手とのコミュニケーション
- 市の関与の明確化
  - 基盤整備面での環境配慮型メニューの導入等の「直接関与」、各種担い手を望ましい方向に誘導するルールの設定、国の関連補助事業の獲得等によるインセンティブの付与等の「間接関与」、各種担い手とのコミュニケーションの場づくり、エリアマネジメント組織立ち上げ支援等の「コーディネート」が考えられる
- 事業手法の具体化

## 実現に向けたロードマップ

平成26年度以降の事業着手、まちびらさの実現に向けたロードマップイメージを以下に示す。

